



[花き部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. シキミ優良母樹系統「Y-1」は湛水挿しでも増殖できる

[要約]

令和 4 年に選抜したシキミ優良母樹系統「Y-1」は、湛水挿しでもミスト挿しと同等の発根率が得られ、鉢上げ後の生育もミスト挿しと同等で、自動灌水設備のない生産者でも増殖が可能である。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 野菜・花研究室

[連絡先] 電話 086-955-0277

[分類] 技術

[背景・ねらい]

挿し木繁殖可能で切り枝品質に優れる優良母樹 2 系統を選抜したが、シキミの挿し木で安定した発根苗を得るためには 1 日に多回数のミスト灌水が必要であり、自動灌水設備が必要である。しかし、岡山県内のほとんどのシキミ生産者は自動でのミスト灌水設備を持っていない。そこで、手灌水のみで挿し木可能な方法として、水を溜めた容器に挿し木床を浸したまま管理する湛水挿しについて適性を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「Y-1」は、湛水挿し区とミスト挿し区の間で発根率に有意な差はなく、湛水挿しでも挿し木可能であるが、「Y-10」はミスト挿し区に比べて湛水挿し区で発根率が低く、湛水挿しでは挿し木できない（表 2）。
2. 「Y-1」の鉢上げ後の生存率は、湛水区とミスト区ともに 100%で差はない（表 3）。
3. 「Y-1」の湛水挿し区は、ミスト挿し区に比べて挿し木 90 日後の最長根長が短い、鉢上げ 78 日後の地上部及び地下部の乾物重に有意な差はなく、湛水挿しはミスト挿しと同等の苗生産が可能である（表 2、3）。

[成果の活用面・留意点]

1. シキミの発根難易は系統により異なる。本試験は「Y-1」及び「Y-10」での結果である。
2. 湛水挿しは、4 月上旬に採穂し、挿し木日から 90 日間、毎日 1 回水が溢れるまで灌水した（図 1）。
3. 挿し木から鉢上げ以降も 75%の遮光を行った（表 1）。
4. 赤磐市の露地圃場から採穂し、挿し木及び鉢上げ後は無加温の常時開放のガラス温室で栽培した結果である。
5. 挿し木方法と合わせて、ジーンバンクで挿し穂を県内に供給する。



[具体的データ]

表1 栽培概要

項目	内容
1. 培土	無調整ピートモス、鹿沼土細粒、バーミキュライトを等量混合
2. 採穂	4月上旬 芽が休眠している新梢先端10cm程度を採取する
3. 遮光	挿し木以降、約75%遮光する
4. 挿し木	採穂当日にオキシベロン2倍液に挿し穂基部を瞬間浸漬し、 培土を6.5cm程度充填した小型育苗箱に挿し木する
5. 鉢上げ	発根したものだけを10月下旬に 培土を充填した7.5cmポリポットに鉢上げする
6. 鉢上げ後の灌水	7～9月は1日1回、10月は3日に1回、11月は4日に1回、 12～1月は7日に1回、手灌水する

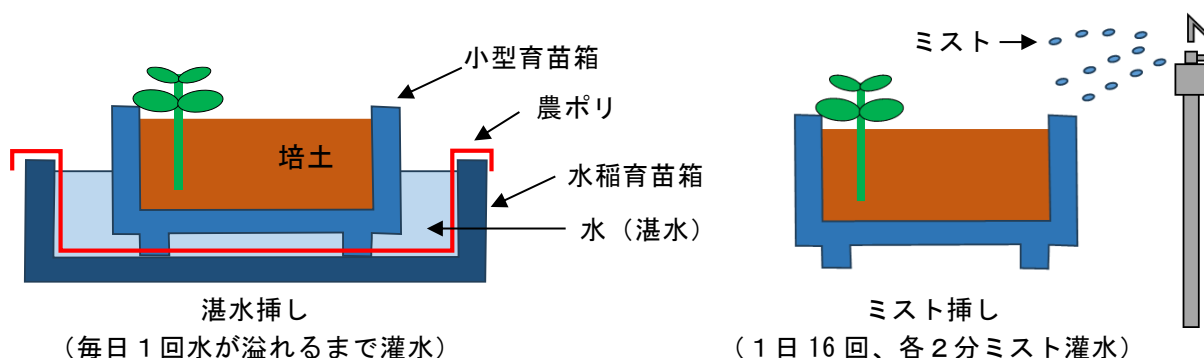


図1 挿し木の灌水方法

表2 灌水方法が発根率及び最長根長に及ぼす影響

系統	処理区	7月2日	
		発根率 (%)	最長根長 (mm)
Y-1	湛水挿し区	88.3	18.9
	ミスト挿し区	96.7	38.0
	有意性 ^z	ns	**
Y-10	湛水挿し区	8.3	22.1
	ミスト挿し区	70.0	22.3
	有意性	**	ns

^z **はt検定により1%水準で有意差があり、
nsは有意差がないことを示す

表3 灌水方法が鉢上げ後の「Y-1」の生育に及ぼす影響

処理区	10月27日	1月13日	
	鉢上げ後 生存率 (%)	乾物重 (g)	
		地上部	地下部
湛水挿し区	100	2.2	0.8
ミスト挿し区	100	2.7	0.8
有意性 ^z	—	ns	ns

^z nsはt検定により有意差がないことを示す

[その他]

研究課題名：特産花き新品種の育成

予算区分・研究期間：県単・平30年度～継続

研究担当者：林祐貴

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[令4 \(81-82\)](#)